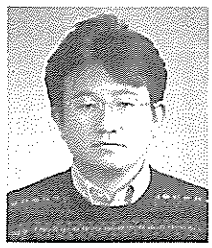
近況報告

阿部一任

松下電器産業株式会社
平成三年情報工学科卒
平成九年システム情報科学修了



私は平成八年に松下電器産業株式会社に入社しました。

入社当時はちょうど第一世代のDVDプレーヤが市場に出始めたころであり、当社でも多くの開発資源を投資して第二世代プレーヤの開発に力を注いでいる最中でした。

大学では音響関連の研究に携わっておりましたが、幸いにもDVDプレーヤ用の音響デコード処理用マイクロコード開発を行なう部署に配属となり、大学での研究テーマを製品に応用するチャンスに恵まれました。入社後の一年間は、博士論文執筆と通常業務を平行して行なわなければならず、忙しい毎日ではありましたが、マルチチャネル再生機能の開発を担当し、なんとか実際の製品への搭載を実現することができました。

その後は、DVD－Audioフォーマット策定業務、またDVD－Audioデコード処理用マイクロコード開発などに携わり、フォーマット策定においては、当社独自方式の開発や海外他社の研究者とのフォーマットコンペティション、また、マイクロコード開発では、コード開発、検証から認定作業までなど、大学での研究とは違った貴重な経験をつむことができました。これらはその後の研究開発業務推進にも非常に役立っております。

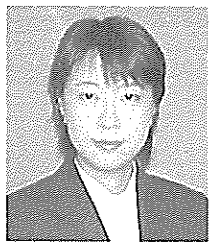
現在はアクティブ音場制御に関する開発を行なっておりますが、デジタルネットワーク時代といわれるように、さまざまなインフラが整い、新しいデバイスが開発されている今、どのような技術があればより豊かな生活になるのか、また、新しい技術をどうやって製品に落とし込んでいくのかを模索しつつあるところです。

今後とも、自身のもつ技術をさらに深く、広くしていくため、日々努力していきたいと思う所存であります。

最後になりましたが、皆様がたのご健勝をお祈り申し上げます。

有野恵子

沖電気工業株式会社
平成九年九州工業大学卒
平成十一年電子工学専攻修了



電子工学専攻を修了して、四年が経とうとしています。現在は、沖電気工業㈱の半導体関連のカンパニーであるシリコンソリューションカンパニーで、マイコン関連のソフトウェア開発に従事しています。ハードにもソフトにも関われる仕事をしたいという希望がかなえられての職場配属でしたが、その奥の深さに日々悪戦苦闘しています。

業務内容としては、入社以来自動車関連LSIのソフトウェアを開発しています。車載LSIは、乗客の命をも左右しかねないため、品質が非常に重要視されるため、要求が厳しい反面やりがいを感じます。車全体から見ると小さな小さな部品の一つにしか過ぎませんが、私が関わったLSIが搭載されている車が走っているのを見かけると嬉しくなります。

今までの仕事の中で一番印象に残っているのは、オランダで行われた国際会議にデモシステムを出展したことです。システムを自分で開発し、現地では説明スタッフを務めました。出国直前まで準備に終われましたが、ヨーロッパのスタッフの協力もあったおかげで好評を博すことができました。

昨年は、同窓の先輩である田中さんのノーベル賞受賞という喜ばしいニュースもありました。私が仕事を通じて学んだことは、「思い入れ」の大切さです。自分の仕事にどれだけの情熱を持って取り組むかが、問題にぶつかったときに壁を越えるためのエネルギーになると思っています。

週末には学生時代から続けているオーケストラで、ストレス解消とリフレッシュをしています。

最後になりましたが諸先輩方のご健勝とご活躍をお祈りします。

訃報

左記の方々の御逝去の報を受けました。ご冥福をお祈りいたします。

平成12年3月	(電昭27)	大津　米吉	
13年8月	(電昭32)	見城　亨	
13年11月	(子平11)	宮川　純	
13年12月	(電昭13)	明石　敬三	
13年12月	(電昭20)	合志　太助	
13年12月	(電昭22)	安藤　文郎	
13年12月	(電昭37)	矢野倉勇吉	
13年12月	(通昭40)	浅利　武雄	
14年1月	(電昭17)	大友　和蔵	
14年1月	(通昭23)	羽田　尚	
14年2月	(電昭8)	竺　信男	
14年2月	(電昭10)	西松　武一	
14年2月	(電昭16)	杉村　次雄	
14年3月	(電昭16)	三浦　清治	
14年3月	(電昭23)	高野　昭二	
14年3月	(電昭23)	弘中　仁	
14年3月	(電昭36)	森戸　廷	
14年3月	(電昭45)	豊田　三郎	
14年4月	(電昭19)	船迫　弘	
14年4月	(通昭29)	渡辺　定久	
14年5月	(電昭18)	市原　公祐	
14年5月	(電昭24)	八田　達	
14年7月	(通昭25)	秋丸　春夫	
14年8月	(通昭40)	佐々木邦夫	
14年8月	(子昭43)	小関　隆之	
14年10月	(電昭34)	平野　英一	
14年12月	(通昭38)	山田　松一	

編集後記

景気の低迷やデフレの進行、イラクや北朝鮮の問題など難問の多い一年間でしたが、我が同窓会にとっては本号でご紹介したような大変嬉しいニュースも相次ぎました。研究開発や教育に携わる人の評価方法や力の引き出し方をどう変えていくべきかについても議論の高まった一年間でした。このような中で各個人が社会にどう寄与できるのかを考える上で、本号がその一助となれば幸いに存じます。

最後に、お忙しい中快く原稿をご執筆くださいました方々に、心より御礼申し上げます。

（二見　記）

「同窓会便り」編集委員会

委員長　牧野　正三*　(44　子)
副委員長　阿曽　弘具*　(43　電)
委　員　根元　義章**　(43　通)
内田　龍男*　(45　子)
中島　康治***　(47　電)
杉山　静夫†　(44　子)
小林　岳彦‡　(H1　電)
吉澤　誠****　(53　電)
二見　亮弘*　(55　子)
三村　秀典***　(現教官)

*　東北大学大学院工学研究科
**　東北大学大学院情報科学研究科
***　東北大学電気通信研究所
****　東北大学情報シナジーセンター
†　(株)ニチベイ
‡　(株)日立国際電気